

情報工学科

1. 教育目標

本学科の専門教育では、計算機の基礎と応用についての知識と技術を教授するとともに、実際に計算機を利用して様々な問題解決ができる能力を育成する。さらに、計算機システムおよびソフトウェアシステムに対して、工学的な技量によるシステムの設計、開発および実現に関する能力の育成をめざす。

教育目標は、以下の通りである。

1. コンピュータの基礎から応用まで体系的に理解させ、コンピュータを活用できる技術者を養成する。
2. 広い視野を持ち、社会の要求する情報システムを設計・構築できる技術者を養成する。
3. 主体的に問題を提起し、継続して課題に取り組み、解決できる技術者を養成する。
4. 文章能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有する技術者を養成する。

2. 教育内容

- (1) 基礎工学・理論、電気・電子工学、計算機システム、ソフトウェア、情報・通信システムおよびマルチメディア等関連技術の分野をバランスよく系統的に配置する。
- (2) 実務や新しい問題に創造的に立ち向かう方法や能力あるいは意欲を養うために、講義では、できる限り実習・演習をとり入れる。また、「卒業研究」等の問題解決型の教育効果を重視し、基本的に同じ形式で運用する「情報工学セミナー」を第4学年に導入する。
- (3) 工学実験では、実験を大きなテーマとして実施することにより、その中の個別の実験項目の意義を理解させる。また、テーマに対するマクロスコピックな把握と理解を促し、これらを基礎に実践的かつ創造的な应用能力を育成するようにする。
- (4) 情報工学関連技術の急激な進歩に対応できるように、選択科目の一部について科目内容については柔軟な対応がとれるようにしている。

3. その他

教員は学生とのコミュニケーションを第一と心得ており、学生が質問や相談等で放課後を積極的に利用することを期待している。

情報工学科

(平成22年度以降入学者)

区分	授業科目	単位数	学 年 別 配 当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応 用 数 学	2				2		
	確 率 統 計	2				2		
	応 用 物 理 I	2			2			
	応 用 物 理 II	2				2		
	基 礎 電 気 工 学	2	2					
	電 気 回 路 I	2		2				
	電 気 磁 気 学	2				2		※
	電 子 回 路 I	2			2			
	デ ィ ジ タ ル 回 路 I	2		2				
	デ ィ ジ タ ル 回 路 II	2			2			
	基 礎 情 報 工 学	2			2			
	計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	2			2			
	情 報 処 理 I	2		2				
	ソ フ ト ウ ェ ア 設 計 論 I	2			2			
	ソ フ ト ウ ェ ア 設 計 論 II	2			2			
	情 報 工 学 セ ミ ナ ー	6				6		
	創 造 実 験 ・ 実 習	4	4					
	基 礎 工 学 実 験 ・ 実 習	2		2				
	基 礎 工 学 実 験	2			2			
	工 学 実 験 I	4				4		
	工 学 実 験 II	3					3	
	卒 業 研 究	12					12	
	修 得 単 位 計	63	6	8	16	18	15	

区分	授業科目	単位数	学 年 別 配 当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
選 択 科 目	情 報 数 学	2					2	
	数 値 解 析	2				2		
	通 信 理 論	2				2		
	電 気 回 路 II	2				2		
	半 導 体 工 学	2					2	
	デ ィ ジ タ ル 信 号 処 理	1				1		
	シ ス テ ム 工 学	2					2	
	自 動 制 御	2					2	
	オ ー ト マ ト ン 理 論	2					2	
	情 報 構 造 論	2				2		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語 論	2					2	
	オ ペ レ ー シ ョ ン ズ リ サ ー チ	2					2	
	シ ス テ ム プ ロ グ ラ ミ ン グ	2				2		
	シ ス テ ム ソ フ ト ウ ェ ア	2					2	※
	ヒ ュ ー マ ン イ ン タ フ ェ ー ス	1				1		
	コ ン パ イ ラ	2					2	
	情 報 シ ス テ ム I	2				2		
	情 報 シ ス テ ム II	2					2	
	知 識 工 学 I	2				2		
	知 識 工 学 II	2					2	
	画 像 工 学	2					2	
	デ ー タ ベ ー ス	2					2	
	通 信 シ ス テ ム I	2				2		
	通 信 シ ス テ ム II	2					2	
	コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク I	2				2		
	コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク II	2					2	
	情 報 セ キ ュ リ テ イ	2					2	
	技 術 英 語	1				1		
	情 報 特 論 I	1				1		
	情 報 特 論 II	2					2	
	環 境 と 人 間	1					1	4,5年集中講義
	校 外 実 習	1				1		
	特 別 講 義	1					1	4,5年集中講義
	小 計	59	0	0	0	23	36	
	開 設 単 位 合 計	122	6	8	16	41	51	

※印は、学則第13条第4項により定める、45時間の学修をもって1単位とする科目である。
卒業時には、一般科目と合計で167単位以上修得できるよう選択科目を履修すること。

[第 1 学年]

科目名	基礎電気工学 Electric Engineering			担当教員	河田 純		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	専門	授業形式	講義・演習	科目番号	11237001	単位区別	履修
学習目標	高学年で電気系専門科目を学習する上で基礎となる，電気回路に関する現象・知識を習得する。また，直流回路に関しては，電流・電圧・抵抗・電力・エネルギー等が方程式を立て，計算・導出できるようにする。そのため，年度初めは，数学の教科書等を使用して，文字式の四則演算や整式の取り扱い等について習得する。						
進め方	講義を中心に，適宜，小テスト・演習を行い，理解を深める。定期試験前には，まとめ・演習を行う。長期休暇中には，課題が与えられるので，レポートを作成し，提出する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 文字式と整式(10) (1)文字式 (2)整式 2. 直流回路の直列接続・並列接続 その1(4) (1)直流回路の電流と電圧 (2)オームの法則 3. 演習(2) ----- [前期中間試験](2)			文字式の四則演算や整式の取り扱いを習得する。 オームの法則の計算が出来ること。			
	4. 試験問題の解答(1) 5. 直流回路の直列接続・並列接続 その2(9) (3)抵抗の直列接続・分圧 (4)抵抗の並列接続・分流 (5)抵抗の直並列接続・分流器と倍率器 6. 演習(4) 前期末試験			抵抗の直列接続・並列接続の計算が出来ること。 直流回路における分圧・分流則を理解し，計算が出来ること。			
	7. 試験問題の解答(1) 8. キルヒホッフの法則(3) (1)キルヒホッフの第1法則・第2法則 (2)回路網の計算 9. 演習(10) ----- [後期中間試験](2)			キルヒホッフの第1法則・第2法則を理解し，回路網方程式の導出・計算が出来ること。			
	10. 試験問題の解答(1) 11. ブリッジ回路(1) 12. 電池の直列接続・並列接続(4) (1)電池の内部抵抗と端子電圧 (2)電池の直列接続・並列接続 13. 電力と熱エネルギー(2) (1)電流の発熱作用 (2)電力と電力量 14. 電気抵抗(3) (1)抵抗率と導電率 (2)抵抗温度係数 15. 演習(1) 後期末試験 16. 試験問題の解答(2)			ブリッジ回路について理解する。 電池の直列接続・並列接続の仕組みについて理解する。 電力とエネルギーに関する基礎知識を身につけ，計算出来ること。 電気抵抗の基礎知識を身につける。 D1:1, 2, D2:1, 2			
	評価方法			定期試験 70%，小テスト・演習等 20%，レポート 10%の比率で評価する。			
	履修要件			特になし。			
	関連科目			電気回路 I(2 年)，電気磁気学(4 年)			
	教 材			教科書：堀田栄基 他 監修 「電気基礎 1」 実教出版，「新版数学 I，II」（実教出版） 参考書：「改訂版チャート式基礎と演習数学 I+A，II+B」（数研出版）			
	備 考			年度初め，項目「1. 文字式と整式」に関しては補講を実施する。			

科 目 名	創造実験・実習 Creative Experiments and Practices			担当教員	松下浩明，野中清孝，奥山真吾，川染勇人 小野安季良，澤田士朗，高城秀之 三崎幸典，天造秀樹，藤井宏行		
学 年	1年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分 野	専門	授業形式	講義・演習	科目番号	11237002	単位区別	履修
学習目標	工学に興味を持ち，高専5年間の学習に粘り強く取り組む姿勢を養うための工学導入教育である。そのため3学科の特徴を生かした1年生が興味を示す実験を中心に行うことを原則とする。この実験によりプログラミングやものづくりの楽しさを体験し，2年生以降の専門教育や工学実験に対する動機付けを行う。						
進め方	始めに，情報リテラシー教育を行う。VBプログラミングでは，さらなるリテラシー教育としてパワーポイント，表計算ソフト及びグラフィックスソフトに関する知識を習得する。プログラミングではVBを用いてプログラミングの基礎を習得し，その知識を用いて創造的かつ独創的なプログラムを作成する。 電子回路製作では，実験を通して，各種部品を知ると共に，回路法則を理解しながら，自らの力で簡単な電子回路製作が行えるようにする。 ロボット製作では，マインドストームによるロボット製作，ロボットコンテスト，パワーポイントによるプレゼンテーションコンテストを中心に行う。学生同士や学生と教員のコミュニケーションを密にしてアイディアを出し合い創造力を養う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 情報リテラシー（12） (1) ガイダンス，コンピューター概要 (2) Webメールの使い方 (3) タイピング練習 (4) ワードプロソフトの使い方			Web メールが使用できる。 D2:1 タッチタイピングができる。 D2:1 ワードプロソフトを用いて文書を作成できる。 C3:1			
	2. VBプログラミング（36） (1) プレゼンテーション資料の作成 (2) 表計算ソフトの使い方 (3) グラフィックスソフトの使い方 (4) VB (Visual Basic) プログラミングの基礎 (5) VBによるアニメーションの作成 (6) VBによる創造的課題プログラミング			発表資料を作成できる。 C3:2 表計算ソフトの基本操作ができる。 C2:1-2 プログラミングの基礎を理解する。 D2:1 基本的なプログラムを作成できる。 D2:2-3 基本的なプログラミングの知識を用いて独創的なプログラムを作成できる。 D2:3			
	3. 電子回路製作（36） (1) 実験説明，初めての電子回路製作 (2) ブレッドボード入門 (3) テスタの取り扱い，抵抗の直並列接続 (4) 電子回路部品説明，使用方法 (5) ゲーム機の製作（実態配線図） (6) ゲーム機の製作			物づくりの楽しさを実感する。 E6:1 テスタの取り扱いを知っている。 D2:1 電子回路部品について簡単な説明ができる。 D2:1 自らの力で，回路の実態配線図が描け，ブレッドボード上に簡単なゲーム機を作ることができる。 E3:1			
	4. ロボット製作（36） (1) 実験説明，テーマ説明，予備実験 (2) ロボット製作実験 (3) ロボットコンテストルール説明，ロボット製作 (4) ロボットコンテスト用ロボット製作実験 (5) プレゼンテーションコンテスト説明，製作 (6) プレゼンテーション製作 (7) プレゼンテーションコンテスト			簡単なロボットを作製することにより創造力を養う E1:1,2,E5:1,2,E6:1-3 パワーポイントの使い方を習得する C1:1,2 自作ロボットのプレゼンテーションを作製する C3:1-3 自分の作製したプレゼンテーションを発表する C4:1-7			
	VB プログラミングでは，演習課題の提出得点，創造的課題の評価得点および演習への取り組み姿勢を総合的に評価する。 電子回路製作では，実験中に行う小テスト，実態配線図や製作物など提出物の丁寧さ，および，実験への取り組み姿勢を総合的に評価する。 ロボット製作では，ロボット制作実験のテーマ解決数，ロボットコンテスト得点，プレゼンテーションコンテスト得点を総合的に評価する。以上3テーマの平均を取り最終評価する。						
	履修要件	特になし。					
関連科目	創造実験・実習（1年） → 基礎工学実験・実習（2年） → 基礎工学実験（3年）						
教 材	自作テキスト，教科書：松下浩明他著「情報処理入門」コロナ社						
備 考	特になし。						

[第 2 学年]

科目名	電気回路 I Electric Circuits I			担当教員	鈴木 浩司		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	専門	授業形式	講義	科目番号	11237003	単位区別	履修
学習目標	電気回路は電気・電子工学の基礎をなすもので、きわめて重要な科目である。1 学年で得た直流回路の基礎知識を基に、オームの法則やキルヒホッフの法則などの諸定理を用いた直流回路解析法を身につける。さらに、三角関数や記号法を用いた定常状態における基本的な交流回路の取り扱いを習得する。						
進め方	授業は原則として、教科書の内容にしたがって進める。カリキュラムの関係上まだ学んでいない数学などは、その都度解説する。演習問題を適宜レポート課題として与え、小テストを行うことで習熟度を確認しながら回路解析の基本的な力を養成する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ガイダンス (1) 2. 電気回路学の基礎 (5) (1) オームの法則, 理想電源 (2) 回路法方程式, 電力 3. 回路解析の基礎 (8) (1) キルヒホッフの法則 (2) 電圧・電流の分配則 (3) 電源の内部抵抗と整合			直流回路における各回路素子の働きを説明できる。 D2:1,3			
	[前期中間試験] (1)						
	4. 試験問題の返却・解説 (1) 5. 回路解析の諸定理 (13) (1) 重ね合わせの原理 (2) 閉路解析法と接点解析法 (3) 行列を用いた連立方程式の解法 (4) テブナンの定理とノートンの定理 (5) 回路解析演習			諸定理を用いて基本的な直流回路の回路解析ができる。 D2:1,2, D5:1			
	前期末試験						
	6. 試験問題の返却・解説 (1) 7. 微分・積分の基礎 (4) 8. 正弦波交流 (11) (1) 正弦波交流 (2) 受動素子の作用 (3) 交流電力と実効値 (4) RL 回路と RC 回路			交流回路の解析に必要な微分・積分ができる。 D1:1,2, D5:1			
	[後期中間試験] (1)						
	9. 試験問題の返却・解説 (1) 10. 複素記号法による交流解析 (13) (1) 複素数の基本的性質 (2) 複素数における微分と積分 (3) フェーザ表示 (4) インピーダンスとアドミタンス (5) 電力の複素数表示			正弦波回路を複素記号法によって表現できる。 D2:1,2			
	後期末試験						
	11. 試験問題の返却・解説 (2)			複素記号法を用いて、基本的な交流回路の回路解析ができる。 D2:1,2, D5:1			
評価方法	最終的な評価（学年末）は、各定期試験の得点 80%, レポート課題, 小テスト 20%の比率で評価する。試験では、基本的な問題が解けるか、やや複雑な回路解析ができるかを評価する。レポート課題と小テストでは、復習ができていないかを評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	基礎電気工学（1 年）						
教 材	教科書：鎌倉友男 他著 「電子工学初歩シリーズ 3・4 電気回路」 培風館						
備 考	特になし						

科 目 名	ディジタル回路 I Digital Circuits I			担当教員	河田 進			
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分 野	専門	授業形式	講義	科目番号	11237004	単位区別	履修	
学習目標	ディジタル技術の基本である情報や数の表現方法および論理関数を理解し、論理回路設計に必要な基本的能力を養う。また、代表的な組合せ回路と順序回路について、その回路構成や動作を学習し、論理回路についての理解を深める。							
進 め 方	ディジタル回路の基礎となる科目であるため、各自が教科書で自主的に学習できるように、教科書主体で教科書にそった講義を行う。講義毎に小テストを行うとともに、適宜演習を行う。また定期的に集中した課題演習を行い、習熟度を増すようトレーニングする。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. ガイダンス、数の表現と基数変換（2） 2. 10進数,2進数,8進数,16進数の基数変換（2） 3. 2進数, 8進数, 16進数の加減算（2） 4. 補数表現と補数加算（2） 5. 符号付き2進数（2） 6. 符号体系と誤り検出（2） 7. 演習（2） ----- [前期中間試験]（1）			ディジタル回路における情報の表現方法、数の表現方法を理解し、基数変換や、2進数, 8進数, 16進数の加減算が行える。 D2:2, D5:1				
	8. 答案返却・解答, プール代数の基本則（2） 9. 論理演算と論理記号（2） 10. 加法標準形と乗法標準形（2） 11. 標準形と真理値表（2） 12. カルノー図の考え方（2） 13. カルノー図による簡単化（2） 14. ドントケア項を利用したカルノー図による簡単化（2） 15. 演習（2）			論理数学の基礎を理解し、プール代数による論理演算が行える。 D2:2, D5:1 真理値表と標準形の関係を理解し、真理値表から標準形を求められる。 D2:2, E2:1, D5:1 カルノー図および Q-M 法による簡単化が行える。 D2:2, E2:1, D5:1				
	前期末試験							
	16. 答案返却・解答, Q-M 法の考え方（2） 17. Q-M 法による簡単化（2） 18. 半加算器と全加算器、比較器（2） 19. エンコーダ・デコーダ（2） 20. フリップフロップ (FF) 概要, SR-FF の回路と動作（2） 21. T-FF・JK-FF・D-FF の動作（2） 22. 演習（2） ----- [後期中間試験]（1）			半加算器等の基本的な論理回路の構成およびその動作を理解する。 D2:2, E2:1, D5:1				
	23. 答案返却・解答, 状態遷移図の考え方（2） 24. 各種 F F の状態遷移図（2） 25. 各種 F F のタイミングチャート（2） 26. シフトレジスタ（2） 27. 非同期式 2 ^N 進カウンタ（2） 28. 同期式 2 ^N 進カウンタ（2） 29. 演習（2）			フリップフロップを理解し、その状態遷移図とタイミングチャートが描ける。 D2:1, 2, E2:1, D5:1 簡単なシフトレジスタ, 2 ^N 進カウンタを理解し、そのタイムチャートが描ける。 D2:2, E2:1, D5:1				
	後期末試験							
	30. 答案返却・解答（2）							
	評価方法	各定期試験の得点 80%、小テスト 10%、演習 10%の比率で総合評価する。 試験では、基本的専門知識をもとに、基本問題および応用問題を解けるかを評価する。 小テストおよび演習では、継続的に授業を復習し、基本的問題が解ける能力が身についているかを評価する。						
	履修要件	特になし						
関連科目	ディジタル回路 I（2 年）→ディジタル回路 II（3 年）、電子回路（3 年）、基礎情報工学（3 年）							
教 材	教科書：浜辺隆二著 「論理回路入門」 森北出版							
備 考								

科目名	情報処理 I Information Processing I			担当教員	金澤啓三・篠山 学		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	専門	授業形式	講義	科目番号	11237005	単位区別	履修
学習目標	コンピュータを問題解決の手段として活用するために必要不可欠なプログラミングの基礎知識を習得する。プログラミング言語として C 言語を用い、プログラム開発の基本手順から、文法や作法、基本的なアルゴリズムを学ぶ。また、プログラムの全体像を構造的に据え、いかに複雑なプログラムでも順次、選択、繰り返しの三つの基本制御構造のみで記述可能なことを理解する。						
進め方	本授業では、学習項目にそって C 言語のプログラム文法や用法、アルゴリズムを解説する。その後に、基礎工学実験・実習でプログラミング演習を行い理解を深めるという形態とする。授業中には、学習項目が身に付いているか定期的に小テストを行い理解度を確認する。また適宜、課題問題を課しレポートとして提出させる。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ガイダンス (3) (1) プログラムとは (2) UNIX および C 言語処理系 2. C 言語入門 (5) (1) 変数と型 (2) 算術演算と代入 (3) 標準入出力 (4) 標準関数 3. 場合分け① (6) (1) if-else 構文 (2) 関係演算を用いた場合分け (3) 論理演算を用いた場合分け ----- [前期中間試験] (2)			プログラミングの基本手順を理解する D2:1, E2:1 C 言語プログラムの基本構造を理解する D2:1,2, E2:1, E3:1 C 言語による選択構造を理解する D2:1,2, E2:1, E3:1			
	4. 試験問題の解答 (2) 5. 場合分け② (4) (1) switch 文 (2) 複雑な場合分け 6. 繰り返し① (8) (1) for 文 (2) 多重ループ 前期末試験			C 言語による繰り返し構造を理解する D2:1,2, E2:1, E3:1			
	7. 試験問題の解答 (2) 8. 繰り返し② (4) (1) while 文 9. ユーザー関数 (6) (1) 関数の宣言と定義 (2) 関数呼び出し 10. 構造化プログラミング (4) (1) フローチャート (2) 構造化手法 ----- [後期中間試験] (2)			関数の概念とその記述方法を理解する D2:1,2, E2:1, E3:1 構造化手法によるモジュール分割の意義を理解する D2:1,2, E2:1, E3:1			
	11. 試験問題の解答 (2) 12. 配列 (12) (1) 最大・最小・平均アルゴリズム (2) ソートアルゴリズム (3) 多次元配列 (4) 配列を引数にとる関数 後期末試験			配列を活用した基本的なアルゴリズムを理解する D2:1,2, E2:1, E3:1			
	13. 試験問題の解答 (2)						
	評価方法 定期試験を 80%、レポートを 20%の比率で総合評価する。						
	履修要件 特になし						
	関連科目 基礎工学実験・実習 (2 年)、ソフトウェア設計論 (3 年)						
	教 材	教科書：林 晴比古 著「新訂 C 言語入門シニア編」ソフトバンク 演習書：情報処理学会 編「プログラミング課題集」森北出版					
備 考	特になし						

科目名	基礎工学実験・実習 Creative Experiments and Practicals			担当教員	篠山 学・金澤 啓三		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	専門	授業形式	講義・演習	科目番号	11237006	単位区別	履修
学習目標	UNIX の操作や VI の操作ができるようになる。C 言語によるプログラムを自分で作成することができるようになる。プログラムの全体像を構造的に据え、いかに複雑なプログラムでも順次、選択、繰り返しの三つの基本制御構造のみで記述可能なことを理解する。						
進め方	C 言語によるプログラミングの授業である情報処理 1 と平行して進める。本演習では UNIX 上で C 言語のプログラムを作成する。また UNIX のコマンドの演習なども行う。定期試験のかわりに確認演習を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ガイダンス(4) (1) UNIX のコマンド演習 2. プログラミング入門(8) (1) 変数と型 (2) 算術演算と代入 (3) 標準入出力の方法 (4) 標準関数 (5) デバッグの方法 1 3. 場合分けの演習(6) (1) if, else 構文 (2) 関係演算子を用いた場合分け (3) 論理演算子を用いた場合分け 4. 確認演習 1(2) 5. 繰り返しの演習 1(8) (1) for 文 (2) 多重ループ (3) デバッグの方法 2 6. 確認演習 2(2)			UNIX のコマンドを実行できる D2:1, E2:1, E3:1 プログラミングの基本手順を理解する D2:1, E2:1, E3:1 簡単なエラーを自分で解決できる E3:1 選択構造を C 言語で記述することができる D2:1, E2:1, E3:1 繰り返し構造を C 言語で記述することができる D2:1, E2:1, E3:1			
	7. 繰り返しの演習 2(7) (1) while 文 (2) 多重ループ 8. ユーザ関数の演習(7) 9. 確認演習 3(2) 10. 配列の演習(12) (1) 最大・最小・平均アルゴリズム (2) ソートアルゴリズム (3) 多次元配列 (4) 配列を引数に取る関数 11. 確認演習 4(2)			関数を用いたプログラムを作成できる D2:1, E2:1, E3:1 配列を用いたプログラムを作成できる D2:1, E2:1, E3:1			
評価方法	確認演習 60%, 演習中のプログラム提出 40% で総合評価する						
履修要件	特になし						
関連科目	情報処理 I (2 年), ソフトウェア設計論(3 年)						
教 材	教科書: 林 晴比古 著「新訂 C 言語入門シニア編」ソフトバンク 演習書: 情報処理学会 編「プログラミング課題集」森北出版						
備 考	オフィスアワー: 木・金の 16:00~17:00						